あおい通信 第91号

第91号 平成24年12月1日
リハビリテーション
デイサービス葵・編集委員会
練馬区東大泉3－17－5
カトウビル3F
電話 03－3978－0919

東京江戸散歩

その四十九 雑司ヶ谷－六

↑上空から見ると「十字架」の形になっているカテドラル大聖堂

写真・文 七海邦夫

●東京カテドラル聖マリア大聖堂

目白通りをはさんで椿山荘の反対側に、きらきらと輝くモダンなカトリック教会が有る。明治二十年（一八八七）、ここに聖母仏語学校が開かれ、後に関口教会となる。明治三十二年、レイ神父が大聖堂を建設。明治三十二年、関口聖母教会となり、大正九年（一九二〇）に東京大司教座聖堂となる。カテドラルとは、その地区の教会の最高責任者がいる場所、即ち大司教座の事。

現在の大聖堂はドイツ、ケルン市のカトリック信者の寄付により、昭和三九年（一九六四）に竣工した。設計は丹下健三、構造は東大坪井研究室。上空から見ると十字架の形になっている。聖堂の左奥に「キリシタン夜泣き石」がある。これはフランスの片田舎ルハドの洞窟に、聖母マリアが現れると言う奇跡が起こり、世界的な巡礼地となったマリア信仰の為に、そっくりに作られた祈りの場である。

●椿山荘

野間記念館に隣接し、目白通りに挟まれる場所に位置する。「建物は目白御殿、庭の椿山荘」とたたえられ、目白台地の斜面を巧みに利用した明治期の見事な自然庭園。

江戸時代、関口は南北朝のころから椿が自生する景勝の地で「つばきやま」と呼ばれていた。江戸時代初期には、神田上水の水役として出府した松尾芭蕉が、深川芭蕉庵に移るまでの四年間、椿山荘に隣接する関口竜隠庵（のちに関口芭蕉庵）に住んでいた。安政四年（一八五七）の切絵図によると、現在の椿山荘の敷地は、上総久留里藩黒田豊前守の下屋敷であった事が分かる。

明治時代、山形有朋が十一年（一八七八）に私財を投じて「つばきやま」を購入「椿山荘」と命名した。山県は明治天皇を始めとする当時の政財界の重鎮を招き、椿山荘で国政を動かす重要な会議を開いていた。

大正七年には当時関西財界で重要な地位を占めていた藤田組の二代目当主「藤田平太郎男爵」が、名園をありのまま残したいという山形有朋の意志を受け継いだ。しかし昭和二十年の空襲で山県公爵の記念館や一千坪の大邸宅、樹木の大半が殆んど灰燼に帰してしまった。幸い丘の木立に囲まれた三重の塔は焼失を免れ、今にその曲線を空に映している。

昭和二十八年（一九四八）、藤田鉱業（旧藤田組）から藤田興行の所有となり、藤田興行の創業者となった小川栄一は「戦後の荒廃した東京に緑のオアシスを」の思想の下に、一万有余の樹木を移植し、名園椿山荘の復興に着手し、昭和二十七年十一月十一日ようやく完成した。園内の三重塔は広島から移築したもので室町末期とされ、都内の現存する塔としては、他に上野寛永寺五重塔、池上本門寺五重塔だけになっている。

広大な庭園→

←三重塔

●学習院

華族の学校として開校したのは明治十年（一八七七）で最初は神田錦町に有った、その後移転を重ね四十一年乃木希典院長の時に目白に校舎が完成、移転している。敷地は約七万坪あるが史跡も多い、堀部安兵衛血洗いの池、芭蕉の句碑、院長の居室、榊壇、グランド脇に「是より左ぞうしがや、右はほりの内」と刻まれた道標がある。

●千歳橋

明治通りと目白通りの高低差を利用した立体交差点の陸橋で、昭和七年完成、優美な曲線を生かした外観、構造のデザインで、「東京の著名橋」に指定されている。

このシリーズは今回で終了します。長い間のご愛読を感謝致します。

新年から又新しい読み物を始めます。

乞うご期待！

世評・時評

真逆

「真逆さま」と書いて『まっさかさま』と読むのは誰もが知っている。だが、「真逆」を『まさか』と読む人は多分いないだろう。これは若者言葉で『まぎやく』と読むことになっている。

初めて聞いたときは成る程と思った。若者言葉には、大抵の場合拒否反応を示す老人の一人だけれど、この時はいささか違った。まぎやく、―ぎやは鼻濁音。ガギグゲゴではなくガギグゲゴ―ギヤギュギョ―マギャクと発音された。

今どき珍しく、鼻濁音で発音された「真逆」に思わず成る程と唸った次第。鼻濁音は、今失われつつある日本語だ。美しい日本語として、これまで度々取り上げられてきたものの、日常的に使われなくなって久しい。一部の地方に限って、日常的に当たり前のこととして使われているにもかかわらず、東京ではむしろ珍らしい発音に成り下がってしまった。因みに筆者自身、かなり意識しないと正しく言えない。

山の手線には鼻濁音で呼ぶ駅名がいくつもある。品川「ガわ」、目黒「ゲろ」、代々木「ギ」、巣鴨「ガも」、駒込「ゴめ」、鶯谷「うゲいす」…ぜひ道らしく美しい日本語で唱えて欲しいと思う。

青葉繁れる桜井の…シゲレルではなくシゲレルだよと教えてくださった音楽の先生のことを懐かしく思い出す。D市の小学校での授業であった。当時D市は、いわゆる標準語の教育が徹底していて、内地から赴任して来たばかりの先生はかなり苦労しておられたようだった。

真逆は、正反対の意。新鮮な響きがある。

（Y・イゼキ）

◆編集委員会より お願いです

「あおい通信」は、皆様からの原稿を募集しています。担当飯島迄お申し出ください。

人が幸福を感ずる時

山嵜　利重

世の人々が、幸福を感ずるときはいろいろで、何時幸福感を感ずるのか？

私の場合は、お風呂に入る時。どこも悪い処もなく、元気な状態でゆっくりと風呂に浸かる時、幸福感を味わう。何事もなく一日を終え、ゆっくりと風呂に入った時はつくづく幸福だと思う。

人間の一生には雑多な事が起き、幸福と不幸は一枚の紙の表裏のようなものであると思う。最近新聞紙上を賑わせる親子心中や，小・中学生の自殺事件はなんだろう、実に不幸なものばかり。

それに引替え、雑草の強さを見る。私は年と共に体力が落ち、足が弱くなるのを防ぐため散歩をするよう努めている。

住宅地のコンクリート歩道の僅かな割目から、たくましく伸びる名もなき雑草が元気に成長しているのを見かける。その繁殖力には驚かされる。雑草はなぜこんなに強いのだろう。人間と比較したくなる。

散歩の途中で見る竹やぶのなかに、すくすくと空に向かって伸びて行く若竹の逞しく伸びる姿を見ると、何とも言えぬ幸福感を覚え、若い竹の美しい色は魅力的で、絵に画きたいと思って見入っている。

雑学

絹田　治夫

「にじゅうしせっき」の続き

九月【白露】野の草に露が宿り始める頃。冷える日が目の前に…【秋分】昼夜の長さが等しい秋分。体調を整えましょう。

十月【寒露】露が降り始める頃。【霜降】霜が降り始める頃です。体を温めて、血行を整えて下さい。

十一月【立冬】暦の上では冬、寒さに耐える体力を。【小雪】雪が舞い始める頃。

十二月【大雪】いよいよ冬本番です。【冬至】昼が最も短くなる冬至。皆さん元気で新年を迎えましょう。

おわり

「江戸の金銭感覚」を書いてみました。

大金も時には人にくれてやる。金儲けにはこだわりがない。落語には頻繁にお金の話が出てきます。

【火焔太鼓】では、一分（いちぶ）で仕入れた太鼓が三両で売れる。

【文七元結】（ぶんしちもっい）では左官の長兵衛が、娘が吉原に身を売って用意した金五十両を通りがかりの身投げ寸前の若い男にくれてやる。どちらもすごい…と聞かされると、言葉につまるのではないだろうか。

明治以降に作られた噺は単位が円だけで助かるが、江戸時代は、両、分、朱、匁、とわかりにくく、両、分、朱、は金貨の単位、匁は銅貨の単位。

思い出の富士登山

麻生　伊登子

昭和二十三年七月二十一日、職場仲間八人と千葉駅を出発、東京駅で東海道本線に乗り継ぎ富士吉田駅下車。天気良し。運動靴とTシャツ姿（当時登山靴なんてなし）

一合目から歩き出す。なだらかな雑木林を過ぎ登山口の狭い道に入る。若い仲間達は意気揚々、くったくのない話をしながら疲れた様子もなく二合目～三合目、五合目の山小屋（レストラン・土産物）に到着。休憩所で一休み。

さて、此処からがほんとの登山。ゴロゴロの岩山を道標の綱を引っ張りながら登る。現在のような整備されたものは何もない。岩一つひとつを踏み越えて進む。時折、雲の霧の中に入る。身を小さくして通り過ぎるのを待つ。八合目まで登らなければ宿はない。

蟻の行列のような人混みもない。宿にも数えるほどの人数だ。それでも足を伸ばし、ゴロ寝をした時の安堵感はうれしい限りであった。

翌朝四時半、待ちに待ったご来光。手を合わせ登山の無事を祈る。

「寒い」。冬支度に身を整え、イザ頂上をめざす。

３７７６ｍ！　一斉にバンザイ！

暖かいお汁粉が待っていてくれた。ゆっくり休憩をとり、須走りを一目散に下る。安物の運動靴がボロボロ。みんなの顔が砂をかぶって真っ黒だ。

二時間余りで下山。登りの九時間が夢のようだ。五合目で顔だけ洗い、歩き始める。東海道本線に汚れたまま乗り込む。

楽しかった！辛かった！　疲れた！

幸せだった青春。

健康有難う

あおい歌壇

麻生　伊登子

氷雨降る　帰郷の吾子ら　案じつつ
年越しそばの　湯気あたたかき

幾度か　通り過ぎ行く　靴の音
耳を澄ませて　娘の帰り待つ

泉　貞子

眼交（まなかい）に　リニューアルせる　東京駅
旧き煉瓦の　ドーム広がる

ステーションホテルと我は　同じ年
大正四年　この世に生まる

同じ年　生れし縁（えにし）　喜びて
ホテルの予約　娘と済ませたり

高橋　カツ

男体山　初冠雪の　ニュースあり
冬の足音　間近となりぬ

草の葉の　露にも似たる　人の世の
命永らえ　今日の喜び

子供達に貰ったワンちゃん

上野　晴也

去年の十二月二十五日に長男と長女から、スーパーバリューにて僕の散歩用にと、マメ柴を貰いました。

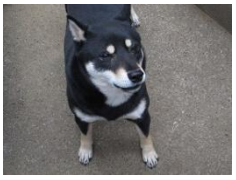
血統書が付いた犬の名前は、茜（あかね）姫号ムーンライトマジックＪＰ。

生年月日は二〇一一年十月二十五日沖縄県糸満市。名前はナナと付けました。

あれからもう一年、犬の歳で云うと十八歳の成犬になりますが、何も教えてやらず、力一杯走り回るのが好きで、歩いての散歩はとても無理。僕は自転車が得意なので自転車で引っ張ることにしました。勿論、息子達は猛反対。

自転車に決めて乗り始めたものの、昔得意だった自転車が、自分の体力の衰えに気づかず自由に乗れず、子犬に引っ張りまわされて、何十回も仰向けにひっくり返り、自分でもよく怪我もせずにいたと思います。

散歩が済んで庭に放せば、また走りまわります。とても利口で、餌などで捕まえられません。



何時も学習して、その手は食わないと、近付いてもきません。警戒心が強く悪賢いナナですが、今では可愛くて、犬の寿命は二十年位なので、私も頑張らずにナナと何時まで一緒にいられるか、と考えるこの頃です。

自分とワンちゃんの話のみで失礼。

葵友の会 広報コーナー

11月度行事の結果

旅行　会

４日～６日、草津・白根・軽井沢に行きました。１１名でしたが、紅葉と温泉三昧とグルメの旅、良かったよ～。

麻雀大会　会

１６日（金）バンバンにて。１１名の参加。

２１日（金）雀荘ベイブにて開催。足達さんの初優勝でした。

12月度行事の予定

今月は、イヴェントお休み月間です。

新年1月度行事の予定

1月25日（金）、横浜中華街で「新年会」を予定しています。

（事務局長）